



1964年  
(昭和39年)

右肩上がり  
拡大社会

2021年  
(令和3年)

右肩上がり  
縮小社会

社会背景	<input type="checkbox"/> 戦後「第一創業期」 (テーマ：復興／経済成長)	<input checked="" type="checkbox"/> これから『第二創業期』へ移行しなければいけない (テーマ：日本の再生／「社会の在り方=制度／ルール」の変換)
経済状況	<input type="checkbox"/> アメリカを手本に「工業立国」で復興、 高度経済成長を実現	<input type="checkbox"/> 1991年バブル崩壊、 <b>失われた30年</b> 。「デジタル・AI化／ <b>産業構造の変換</b> 」に出遅れ、 <b>国際競争力は急降下</b>
人口構造	<input type="checkbox"/> 人口拡大 → 労働人口は国力の源泉 (拡大する支える人 > 支えられる人)	<input checked="" type="checkbox"/> 若手の縮小／高齢者の増加 → 社会全体で人口縮小 (縮小する支える人 < 圧倒的に多い支えられる人)
高齢化率	<input type="checkbox"/> <b>6%</b> (主要先進国で最も若い国として東京五輪 を開催した)	<input type="checkbox"/> <b>29%</b> : (21%超で“ <b>超高齢社会</b> ”と言われる → 高齢者は75歳 以上と再定義すれば、15%に抑えられる)
国民の 平均年齢	<input type="checkbox"/> <b>29歳</b> (社会は若者で溢れかえていた)	<input checked="" type="checkbox"/> <b>48歳</b> (まもなく50歳を超える。そして40代が若手世代の側に入ることになる)
生きる期間	<input type="checkbox"/> <b>70年ライフ</b> (男性65歳／女性70歳)	<input type="checkbox"/> <b>100年ライフ</b> (最頻死亡年齢：男性88歳／女性92歳＝ 昭和ひと桁生まれ。現役世代は男性95歳／女性100歳に)
年金の 支給期間	<input type="checkbox"/> 男性5年／女性10年 (60歳から支給)	<input checked="" type="checkbox"/> 男性28年／女性32年 (最頻死亡年齢で計算して約30年。 昭和ひと桁生まれは60歳から支給されている)
国民医療費	<input type="checkbox"/> <b>1.1兆円</b> (癌や認知症を発症する前に亡く なっていた)	<input type="checkbox"/> <b>45.0兆円</b> ( <b>健康寿命が尽きてしまう75歳以降に癌や認知 症を発症するケースが多く、医療費は急増する</b> )
人生設計	<input type="checkbox"/> 一本道のルール (学ぶ → 働く → 余生という 一本道の人生)	<input checked="" type="checkbox"/> 多様なライフコース (学ぶ／働く／遊ぶ／学び直す／働く・・・ という多様な人生)
帰属意識	<input type="checkbox"/> <b>会社</b> (とりわけ男性は所属する会社の メンバーシップであることを意識した)	<input type="checkbox"/> 多元的に (家庭／会社／地域など)、 <b>社会全体のメンバーで あることを意識するようにならなければいけない</b> )
求められる 人材	<input type="checkbox"/> 定年まで勤め上げる「会社人間」	<input checked="" type="checkbox"/> 広く社会で／長く活躍する『 <b>社会の人材</b> 』へ
教育方針	<input type="checkbox"/> <b>突出していない平均的な人材</b> (学ぶのは学生時代だけ)	<input type="checkbox"/> <b>多様性に寛容で、時代の変化に対応できる人材</b> (生涯にわたって学び続ける)
社会保障の 配分	<input type="checkbox"/> 圧倒的多数の現役世代が「 <b>圧倒的少数の 高齢者</b> 」を助ける	<input checked="" type="checkbox"/> 現役世代縮小のため、「 <b>全世代型／真に困っている人を 助ける社会保障</b> 」へ移行しなければいけない